

大阪市立海老江東小学校 平成26年度 運営に関する計画・自己評価（総括シート）

1 学校運営の中期目標

現状と課題**【現状】**

本校は平成26年度で創立81周年を迎えた。現在は15学級(内特別支援学級2学級)児童数314名、教職員は27名である。JR大阪駅から西2kmに位置し北は淀川、南は阪神野田駅に挟まれた交通の便の良い地域である。

校区には古くからの街並みと新しくできたマンションが混在し、ここ数年は児童数増加の傾向にある。地域住民の学校に対する思いは熱く強く、学校とともに取り組む行事も多い。校下にある八坂神社の祭りは特に盛んで、東西南北の町の山車が町を練り歩き賑わう。住民は祭りを中心とした組織で強く結びついており、町ぐるみで子どもを育てていくといった文化が受け継がれている。また、校外での子ども会の活動が盛んで、子ども祭りやソフトボール・キックベースボールなども熱心に行われている。

児童は、家庭環境が安定していることで多くは落ち着いているが、近年、虐待が疑われる児童も見られ、児童を取り巻く問題は、年々多様化複雑化している。そのことで担任本来の学習指導以外の仕事量が増し過重な負担となっている。また、学級の中に特別な配慮を要する児童も増加しており、個別の対応も増えている。

知：学力の面では、長年にわたる読書活動が実を結んでおり、集中して本を読むことなどの習慣が身についている。また、教員の努力で学習意欲が高い児童も多く、家庭学習の時間も全校児童平均42分(H25.7)から平均50.7分(H27.1)と年々少しではあるが増加している。しかし、国語・算数については上位群と下位群の2極化傾向が見られるのもまた事実である。特に国語科では、自分の意見をはつきり言うことや資料をもとに自分の意見をまとめるなどの活用にまだまだ課題がある。

徳：心の育成の面では、全体的には自尊感情が高いものの、自己抑制がきかない児童も増加傾向にある。また、いじめ調査によても明確ないじめ事案は見つからないが、いじめにつながりかねないからかい事案などが見られる。個性を認め合う「いいとこみつけ」や縦割り班(異学年集団)活動などの活動を通して、仲間づくりを推進するとともに豊かな心の育成に努めている。

体：健康・体力の面では、敏捷性や持久力が全国平均を下回っている。運動場が狭いということも関係しているが、期間を決めて体力bingoや短縄運動、かけ足運動を実施することなどを通して、児童が自己の健康の保持増進と積極的な体力づくりに取り組める環境づくりを行ってきてている。さらに、運動に親しめる新たな取り組みを考えていく必要がある。

【課題】

◇虐待の事案も数件起こっており、関係諸機関と連携して改善に努めている。

◇学力の向上に向けて、児童の学習意欲を維持向上させるための仕掛けづくりを行う(自主学習ノートやポートフォリオ)

◇あいさつができる・仲間を思いやる・自分の感情をコントロールできるなど「心の教育」を推進する。

◇児童が運動に親しめる環境づくりを進める。(運動場の走行ラインの設置・運動場の一部芝生化)

◇教職員のさらなる資質の向上のため専門家の招聘など外部人材の活用を図る。

中期目標

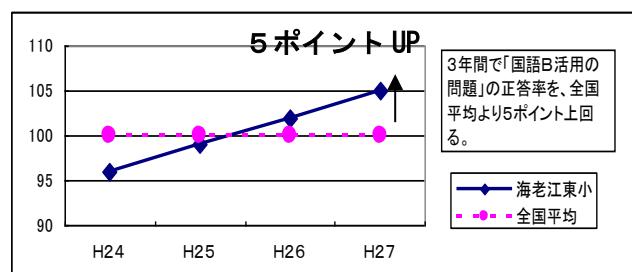
【視点1 学力の向上】

国語の活用力の向上 (カリキュラム改革関連)

A 平成27年度の全国学力・学習状況調査における「国語の主として活用の問題」の正答率を全国平均より5ポイント向上させる。→ **H26達成**

※H24: 本校53.5→**58.0**
全国55.6→**49.4**

国語の活用力の向上



自主学習の定着 (カリキュラム改革関連)

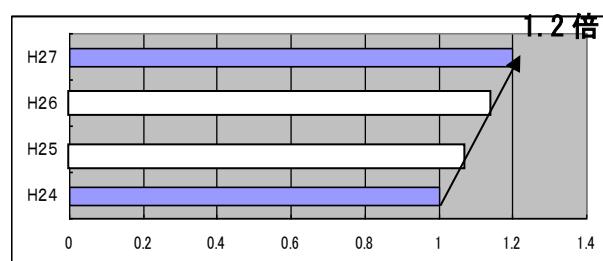
B 平成27年度末に、児童一人当たり1日の家庭学習の時間を平成25年度はじめの1.2倍にする。→ **H26未達成**

H25.7…45.2分 H27.1…50.7分 1.12倍

C 児童一人当たり1日の家庭学習の時間の調査を年度初めに実施するとともに、家庭学習の手引きを作成し全児童に配布して学年に応じた自主的な学習の仕方を理解させる。平成27年度末の学校アンケートの「自主学習の仕方がわかった」の割合を70%以上にする。→ **H26達成**

H27.1学校アンケート 92%

自主学習の定着



D 平成27年度末の学校アンケートで「家で学校の予習・復習をしている(どちらかといえば、している)」の割合を50%以上にする。

※学テH24本校: 予習33.3%—復習40.4%

全国: 予習40.5%—復習50.2%

→ **H26達成 H27.1学校アンケート 74.7%**

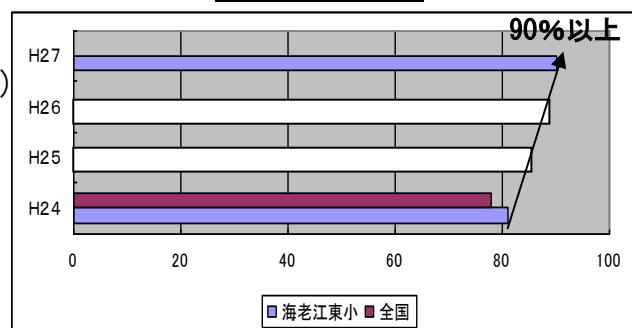
自尊感情の向上

【視点2 道徳心・社会性の育成】

自尊感情の向上 (カリキュラム改革関連)

E 平成27年度の全国学力・学習状況調査における「自分には、よいところがある」の項目について「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える児童の割合を90%以上にする。

※H24本校: 81.0% 全国: 77.8% → **H26未達成 H26 本校: 77.5% 全国: 76.1%**



あいさつの励行と定着 (カリキュラム改革関連)

F 平成27年度末の学校アンケートで、「すすんであいさつをしている(どちらかと言えばしている)」と答える児童の割合を90%以上にする。

→ H26 未達成 H27.1 学校アンケート 87.3%

いじめへの組織的対応 (マネジメント改革関連)

G 学校で認知した「いじめ」について、解消に向けて組織的に対応している割合を100%にする。

→ H26 達成 「いじめ」事案は認められず、からかい事案等の諸問題を早期の段階で指導

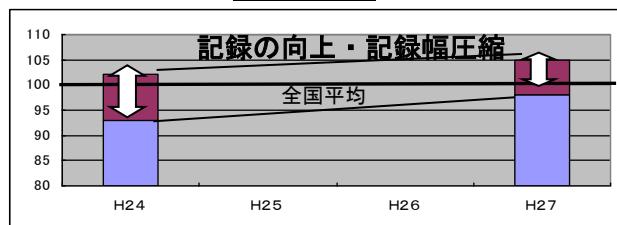
体力の向上

【視点3 健康・体力の保持増進】

体力の向上 (カリキュラム改革関連)

H 平成24年度の体力テスト(5年生)の各種目の結果が全国平均の93~112%の幅にあるのを、平成27年度までに98~115%に向上させる。H26 未達成

→ H26 体力テスト結果 82%(20mシャトルラン)~139%(ボール投げ)



【視点4 外部人材の活用による学校活性化】

体験活動の充実 (ガバナンス改革関連)

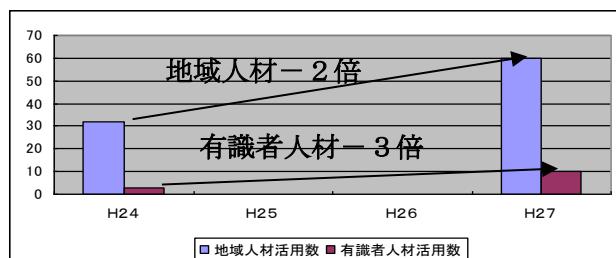
I 平成24年度の地域人材活用数を2倍にして子どもの体験活動の場を増やすことで、「体験が将来に役立った(どちらかと言えば役立った)」の割合を80%以上にする。

※H24地域人材の活用数：のべ32名
→ 60名以上

→ H26 達成 H27.1 88.8%

のべ62名

外部人材の活用による学校活性化



教職員の資質向上 (学校サポート改革関連)

J 平成24年度の学識経験者人材活用数を3倍にして教職員の研修の場を増やすことで、「授業や指導に役立った(どちらかと言えば役立った)」の割合を80%以上にする。

※H24学識経験者人材の活用数：のべ3名 → 10名以上

→ H26 達成 H27.1 100% のべ10名

2 中期目標の達成に向けた年度目標

【視点1 学力の向上】

- a 平成26年度の全国学力・学習状況調査における国語の主として活用の問題の正答率を全国平均より5ポイント向上させる。達成 ※H26:本校 62.9 全国 55.5 (カリキュラム改革関連)
- a-1 英語活動を通して、コミュニケーション力がついたと感じる子どもの割合を50%以上にする。達成 ※H27/1 : 81.0% (カリキュラム改革関連)
- b 児童一人当たり1日の家庭学習の時間を1.1倍の50分にする。達成 ※H27/1 : 50.7分 (カリキュラム改革関連)
- c 家庭学習の手引きを作成し全児童に配布して学年に応じた自主的な学習の仕方を理解させる。学校アンケートで「自主学習の仕方がわかった」の割合を70%以上にする。達成 ※H27/1 : 92.3% (カリキュラム改革関連)
- d 学校アンケートで「家で学校の予習・復習をしている(どちらかといえば、している)」の割合を70%以上にする。達成 ※H27/1 : 74.7% (カリキュラム改革関連)

【視点2 道徳心・社会性の育成】

- e 平成27年度の全国学力・学習状況調査における「自分には、よいところがある」の項目について「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える児童の割合を90%以上にする。未達成 ※H26 学テ(6年) : 77.5% H27/1 学校アンケート(全学年) : 80.0% (カリキュラム改革関連)
- f 学校アンケートで、「すすんであいさつをしている(どちらかと言えばしている)」と答える児童の割合を80%以上にする。達成 ※H27/1 : 87.3% (カリキュラム改革関連)
- g 学校で認知した「いじめ」について、解消に向けて組織的に対応している割合を100%にする。達成 (マネジメント改革関連)

【視点3 健康・体力の保持増進】

- h 平成24年度の体力テストの各種目の結果を分析し、弱点を補う運動を考案し、児童が平素から体力づくりに取り組める環境づくりを行う。未達成 ※H26:82~139% (カリキュラム改革関連)

【視点4 外部人材の活用による学校活性化】

- i 平成24年度の地域人材活用数を1.5倍にして子どもの体験活動の場を増やすことで、「体験が将来に役立った(どちらかと言えば役立った)」の割合を80%以上にする。達成 ※H27/1:のべ62名の活用 91.6% (ガバナンス改革関連)
- j 平成24年度の学識経験者人材活用数を2倍にして教職員の研修の場を増やすことで、「授業や指導に役立った(どちらかと言えば役立った)」の割合を80%以上にする。達成 ※H27/1 : のべ10名の活用 100% (学校サポート改革関連)

3 本年の自己評価結果の総括

平成25・26・27年度の3年間の中期目標4つの視点「学力の向上」「道徳心・社会性の育成」「健康・体力の保持増進」「外部人材の活用による学校活性化」の下位10項目[A]～[J]のうち7項目について、初年度である平成25年度に達成した。本年度である平成26年度は、下位項目に英語活動の1項目を加え11項目でスタートし、うち9項目を達成(達成率82%)した。

【視点1：学力の向上】

項目[A]「国語の活用力の向上」では、平成26年度全国学力学習状況調査において、全国を7.4ポイント上回る結果となった。朝の一斉読書タイムの積み重ねを土台に本校独自の視写活動や学習中の児童の発表や書く活動を大切にした授業をすすめてきた成果である。

項目[B]・[C]・[D]「自主学習の定着」のうち[B]では、平成25年度の7月調査では児童一人あたりの家庭学習の時間は平均45.2分、平成27年1月調査では50.7分と1.12倍にとどまっている。増加の傾向にはあるものの平成28年度末目標の1.2倍には到達していない。[C]の「学習の仕方が分かったか」では、1月調査で92.3%の児童が「わかった・どちらかといえばわかった」と答えており、目標の70%を大きく上回った。[D]の「家で学校の予習・復習をしているか」(参考：平成24年度学テでは、40～50%)についても1月調査で74.7%の児童が「している・どちらかといえばしている」と答えており、平成27年度末目標の50%以上を大きく上回っている。家庭学習における保護者の関心も高く家庭での学習習慣を身に付けることに協力的であることが基盤としてあるものの、学級担任から家庭学習の仕方や自主学習ノートの使い方を指導が効果を上げている。また、「家庭学習の手引き」や「自主学習ノート(校長戦略費)」の配布、「自主学習を充実させるためのピカイチ集」の学校ホームページへの掲載も子どもたちの学習意欲を向上させている。

【視点2：道徳性・社会性の育成】

項目[E]「自尊感情の向上」の「自分には、よいところがある」では「当てはまる・どちらかといえばあてはまる」と答える児童が1月調査で80.0%(参考：平成26年度 学力・学習状況調査の全国平均76.1%)と上回っている。本校では、児童の良いところを見つけて褒めることを基本に学級経営をすすめるとともに、「いいとこさがし」などの平素の実践の成果である。

項目[F]「あいさつの励行と定着」では、「すすんであいさつをしているか」で「している・どちらかといえばしている」と答えた児童が87.3%となっており、平成27年度末目標の90%以上に近い値となっている。本年度は児童会のあいさつ運動の取組みに「あいさつ5レンジャーが登場する」などの新しい工夫も見られ、数値が伸びたと考えられる。平成27年1月調査によると、児童87.3%・保護者80.9%・教職員66.7%で、3者で受け止め方の違いが見られる。評価が一致していくように継続指導していく必要がある。

項目[G]「いじめへの組織的対応」については、児童間のからかいや個別の支援を要する児童がいたもののいじめに発展した事案はなかった。毎月の教職員の生活指導連絡会で児童の問題行動について話し合い教職員で共通理解のもと組織的に対応していること、また、教育委員会の「いじめ調査」を活用し、今後いじめにつながる恐れがあると思われる事案については担任が詳しく聞き取り問題解決にあたったことが効果をあげている。今後も、早期発見即対応を図っていく。

【視点3：健康・体力の保持増進】

項目H「体力の向上」については、平成24年の体力テストにおいて各種目の全国平均93%～112%の幅にあったものが、平成25年度では95%～122%に、平成26年度では82%～132%となった。平成27年度末目標の98%～115%にまで引き上げるという目標には達したとは言えないが、8種目の体力合計点では、全国平均を上回る結果となっている。反復横とびや20mシャトルランが全国平均に達しておらず、全体の平均を押し下げる結果となっている。今後、体育の時間などにラダートレーニングを効果的に導入するなど次年度に向けた対策が必要である。昨年度より取り組んできた、期間を決めて行う体力ビンゴ（普段使わない筋肉を使う運動や体幹を鍛える運動）やなわとび運動、かけ足運動など授業以外の活動は、児童の健康保持・体力づくりへの意識を高めており、継続して実施していく。

【視点4：外部人材の活用による学校活性化】

項目I「体験活動の充実」については、平成24年度地域人材の活用数延べ32名を平成25年度に63名、平成26年度には62名にし、体験活動の充実を図ってきた。「体験が将来に役立った・どちらかといえば役立った」の割合は平成27年1月調査で91.6%となり、目標の80%を大きく上回った。

項目J「教職員の資質向上」については、平成24年度学識経験者人材の活用数延べ3名を平成25年度に10名、平成26年度も10名にし、教職員研修を充実してきた。本年度は、研究教科である「英語活動」において大学教授、発達障がいの理解を深めるために専門家、児童虐待と保護者の対応について虐待防止協会の専門委員をそれぞれ招聘しスキルアップを図った。「授業や指導に役立った・どちらかといえば役立った」が平成25年12月調査で100%となり、目標の80%を大きく上回った。

大阪市立海老江東小学校 平成26年度 運営に関する計画・自己評価(目標別シート)

評価基準 A : 目標を上回って達成した

B : 目標どおりに達成した

C : 取り組んだが目標を達成できなかった D : ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【視点 学力の向上】	
a 平成26年度の全国学力・学習状況調査における国語の主として活用の問題の正答率を全国平均より5ポイント向上させる。※H25:本校58.0 全国49.4 (カリキュラム改革関連)	A
a-1 英語活動を通して、コミュニケーション力がついたと感じる子どもの割合を50%以上にする。 (カリキュラム改革関連)	A
b 児童一人当たり1日の家庭学習の時間を1.1倍の50分にする。※H25:45.2分 (カリキュラム改革関連)	A
c 家庭学習の手引きを作成し全児童に配布して学年に応じた自主的な学習の仕方を理解させる。学校アンケートで「自主学習の仕方がわかった」の割合を70%以上にする。※H25:87% (カリキュラム改革関連)	A
d 学校アンケートで「家で学校の予習・復習をしている(どちらかといえば、している)」の割合を70%以上にする。※H25:77% (カリキュラム改革関連)	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
取組内容①【言語力や論理的思考能力の育成】 ・自分の考えをまとめて分析し発表する力が弱いので、その力を高めるために音読・観察・漢字練習などの反復練習をして、基礎的な学力を向上させる。	
指標 ① 家庭学習での国語の音読回数を年間100回以上にする。 ② 全学年年間20回以上の観察活動を実施する。最終回の「速さと字数」を1回目より3%向上させる。(同一プリントで比較) ③ 漢字練習の仕方を定着させ、漢字テストの個人平均点が50点以下の子どもを1割以上50点以上にする。	A
① 英語の授業後アンケートで「英語でコミュニケーションできた」という子どもの割合を50%以上にする。	A
取組内容②【習熟度別少人数授業の充実】 ・習熟度別少人数授業を行うことにより、丁寧な資料の読み取りと発表の機会を増やし、自分の考えをまとめて発表する力を向上させる。	

<p>指標</p> <p>① 24年度の学習理解度到達診断の資料分析により「資料について考えをまとめる問題」の正答率を3%向上させる。</p>	A
<p>取組内容③【活用力の向上】</p> <ul style="list-style-type: none"> デジタル教科書を活用し、視覚的に教材提示し比較や関係付けをさせ、児童に説明させる場を増やすことで、国語の活用力を向上させる。 	A
<p>指標</p> <p>① 平成26年度の全国学力・学習状況調査の国語の活用の問題の正答率を全国並みに向上させる。</p>	
<p>取組内容④【自主学習習慣の確立】</p> <ul style="list-style-type: none"> 家庭学習の手引きを作成し全児童に配布して学年に応じた自主的な学習の仕方を理解させる。 	
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童一人当たりの1日の家庭学習時間を各クラス5%増やす。 学校アンケートを実施し、「自主学習の仕方がわかった」の割合を50%以上にする。 学校アンケートで「家の予習・復習をしている(どちらかといえば、している)」の割合を50%以上にする。 	A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析	
取組内容①	
指標①	音読カードを使用し、ほぼ毎日家庭学習の課題としているので、年間100回は超えている。
指標②	速さで18.7%、字数で7.5%アップしており、目標を上回って達成できている。
指標③	漢字練習の仕方は定着しており、漢字テストの個人平均点が50点以下の子どもを1割以上50点以上にする目標は達成できた。漢字テストでは8割以上の子どもがよくできており、50点以下の子どもはほとんどいなくなっている。
指標④	アンケートでは81%の子どもが「できた」と答え、保護者も74%ができたとしている。
取組内容②	
指標①	診断の活用問題の結果によると、5年H24…57%→6年H25…75%になり、活用正答率が伸びている。
取組内容③	
指標①	学力テストの結果からは達成できている。

取組内容④

- 指標① 自主学習の時間は3. 7分のび、7. 8%アップしており、目標を上回っている。
- 指標② アンケートによると、子どもは93%、保護者は59%とどちらも伸びており、50%を上回っている。
- 指標③ アンケートによると、子どもは79→74%、保護者は55→52%と少し減少しているが、どちらも50%を上回っている。

次年度への改善点

- ・自主学習の様子を保護者が把握できていないこともあるので、定期的にノートを確認してもらう。努力していることを知ってもらって関心を高めていく。

大阪市立海老江東小学校 平成26年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した

B：目標どおりに達成した

C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【視点 道徳心・社会性の育成】 e 平成25年度の全国学力・学習状況調査における「自分には、よいところがある」の項目について「当てはまる(どちらかといえば、当てはまる)」と答える児童の割合を90%以上にする。 ※H25本校：90.4% (カリキュラム改革関連)	B
f 学校アンケートで、「すすんであいさつをしている(どちらかと言えばしている)」と答える児童の割合を80%以上にする。 (カリキュラム改革関連)	B
g 学校で認知した「いじめ」について、解消に向けて組織的に対応している割合を100%にする。 (マネジメント改革関連)	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
取組内容①【道徳教育の推進】 ・道徳教育を通して、①「自分のよさを知り認める」②「友だち（他の人）のよさを知り認める」③「仲間づくりを大切にする」の3本柱で取り組む。週一回ある道徳の時間に、副読本やクラスの児童の日記、作文など様々な資料を通して自尊感情を高めるようとする。 ・「朝の会」「帰りの会」「学級活動」などで、機会があるごとに「うれしかったこと」「親切にしてもらったこと」などを発表しあいのよさを認め交流しあう場を設定する。 ・学校だよりや学年だよりなどで「よさをみつけほめること」を保護者にも啓発し意識を促す。	B
指標 ① 中間評価前と年度末の年2回アンケートを実施し、自尊感情の高まりを測る。「自分にはよいところがある」の項目について「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を90%以上にする。	
取組内容②【道徳教育の推進】 ・あいさつ強調月間や児童会のあいさつ運動週間を設定する。	
指標 ① 学校アンケートを実施し「すすんであいさつをしている(どちらかと言えばしている)」の割合を80%以上にする。 ② あいさつ運動実施後の振り返りカードに「担任の先生以外の教職員や来客、友だちにも自分から進んであいさつができたか」という項目を入れ、出会った人に進んであいさつをするという意識付けを図	B

る。

A

取組内容③【いじめへの対応】

- ・いじめ対策委員会(生活指導連絡会)を中心に校内の状況を全教職員で点検し共通理解するとともに、いじめと認められる事象について迅速にかつ組織的に対応する。

指標

- ① いじめ対策委員会(生活指導連絡会)を月1回実施し全教職員で状況を把握する。
- ② いじめを早期に発見し組織的対応率を100%にする。

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

取組内容①

指標① アンケート結果で、「自分にはよいところがある（とても～。どちらかといえば～。）」と答えた児童は79.6%で、7月の84.1%より減っている。学習・生活の両面からその原因をさぐるとともに、道徳教育の充実を図り、保護者にも啓発しながら、子どもたちのよさを認め、自尊感情を高められるような取り組みをすすめる必要がある。

取組内容②

- 指標① アンケート結果では、「すすんであいさつをしている（とても～。どちらかといえば～。）」と答えた児童は87.3%で、7月の89.4%より微減しているものの目標は達成できている。職員は70.5%と依然として意識の隔たりはあるが、7月（44.4%）よりは自発的なあいさつのできる児童が少しずつ増えている。
- 指標② あいさつ運動の振り返りカードに、子どもたちがより具体的に振り返ることができるような項目を入れたり、ラジオドラマ・あいさつレンジャーなどの児童会の活動にも工夫が見られたりして、子どもたちの意識も徐々に高まっている。

取組内容③

- 指標① 月1回の生活指導連絡会だけでなく、必要に応じて職員朝会でも報告や共通理解を行い、問題行動を把握し対応してきた。
- 指標② 「いじめについてのアンケート」を実施し、個別に指導することができた。事案が生じたときは、全教職員に知らせ、管理職とともに、学年や校内委員会・生活指導部で対応している。

次年度への改善点

- ・子どもたちが自分のよさを認め、自己肯定感を高めていくような取り組みや教材についての交流や研修が必要である。
- ・いじめではない問題行動については、引き続き指導していくことが必要である。
- ・全教職員で学校全体の問題と捉え、実態把握し対策を考えることができるようとする。

大阪市立海老江東小学校 平成26年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した

B：目標どおりに達成した

C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【視点 健康・体力の保持増進】 [h]平成24年度の体力テストの各種目の結果を分析し、弱点を補う運動を考案し、児童が平素から体力づくりに取り組める環境づくりを行う。H25：95～122% （カリキュラム改革関連）	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
取組内容①【健康な生活習慣の確立】 ・早寝・早起きなどの生活習慣について振り返りカードを活用し、生活習慣の改善を図る。 指標 ① 生活習慣のチェックカードを作り、年2回実施する。年度末に生活習慣について意識が高まった児童の割合を80%以上にする。	A
取組内容②【体力向上への支援】 ・プール水泳や持久走では、めあてを作り6年間で達成できるようにする。 ・縄跳び運動や駆け足運動を継続して取り組み、自己の伸びを記録していく。 ・ラダートレーニングを活用し、敏捷性や持久力を高める。 指標 ② 自己の記録の伸びが自覚できる記録カードを作成してファイルにとじ6年間活用する。 ② 体力ビンゴに取り組み、運動が好きな児童の割合を80%以上にする。	B

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
取組内容①
指標① 強調週間や夏休み・冬休みの生活習慣チェックカードをつけることにより、生活リズムを見直すきっかけになり、生活習慣についての意識の高い児童の割合が80%以上になった。
取組内容②
指標① 自己の記録の伸びや結果をカードに記入し、ファイルを活用することによって、来年度と比較できるようにした。
指標② 体操の講師に来ていただき、体幹を鍛える基本的な運動について指導していただいた。体力ビンゴに取り組み、運動が好きな児童の割合が80%以上あり、体力ビンゴを継続することで、より楽しく運動に取り組めると思われる。
次年度への改善点
・体力ビンゴを年2回実施できるように計画する。

大阪市立海老江東小学校 平成26年度 運営に関する計画・自己評価（目標別シート）

評価基準 A：目標を上回って達成した

B：目標どおりに達成した

C：取り組んだが目標を達成できなかった D：ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
【視点 外部人材の活用による学校活性化】 <input checked="" type="checkbox"/> 平成24年度の地域人材活用数を1.5倍にして子どもの体験活動の場を増やすことで、「体験が将来に役立った(どちらかと言えば役立った)」の割合を80%以上にする。 ※H25：のべ63名の活用 93% (ガバナンス改革関連)	A
<input checked="" type="checkbox"/> 平成24年度の学識経験者人材活用数を2倍にして教職員の研修の場を増やすことで、「授業や指導に役立った(どちらかと言えば役立った)」の割合を80%以上にする。 ※H25：のべ10名の活用 100% (学校サポート改革関連)	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	達成状況
取組内容①【体験活動の充実】 ・平成24年度の地域人材活用数を1.5倍にして子どもの体験活動の場を増やす。 ※H25本校地域人材活用数：63名 指標 ① 学校アンケートを実施し「体験が将来に役立った(どちらかと言えば役立った)」の割合を80%以上にする。(H26 地域人材活用数：51名の予定)	A
取組内容②【研修の充実】 ・平成24年度の学識経験者人材活用数を2倍にして教職員の研修の場を増やす。 ※H25本校地域人材活用数：10名 指標 ① 教職員アンケートを実施し実施した研修が「授業や指導に役立った(どちらかと言えば役立った)」の割合を80%以上にする。(H26 地域人材活用数：7名の予定)	A

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析
<u>取組内容①</u> 指標① 児童のアンケート結果は、91.6%（7月88.7%）で80%以上となり、目標を達成することができた。地域人材数は、H24の32名からH26は62名となり、1.5倍を達成している。地域の方による火おこし・昔遊び体験や、車椅子体験・キャリア教育・そろばん体験など、さまざまな体験活動の場を増やし交流することで、興味・関心が広がった。
<u>取組内容②</u> 指標① 教職員アンケートの結果は「役立った(どちらかといえど)」が100%になった。学識経験者人材活用数は、H24の3名からH26は10名となり、2倍以上になっている。外国語活動・

特別支援などに加え、体幹・色覚・児童虐待などの研修を実施し、実践に生かすことができた。

次年度への改善点

- ・今後も子どもの実態にあった体験活動を取捨選択し、生きてはたらく体験活動を積み重ねていく。音楽・理科などの研修によるスキルアップなども検討していく。